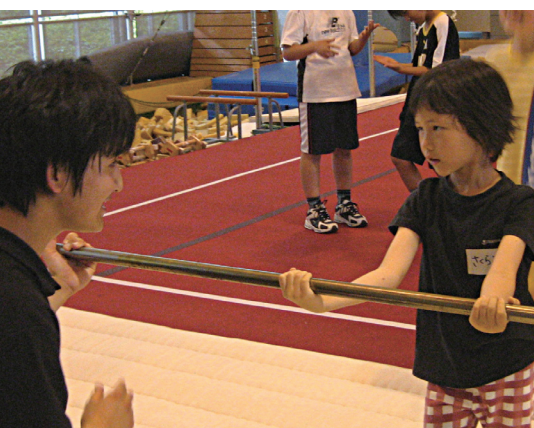


スポーツ・学生・子ども 新たな関わり方を探して

SPORTS COMMUNITY
NO. 3
NUMBER THREE



スタッフが考える WILD の将来像、そして WILD の子どもたちに見る夢

WILD359ers 小池 智昭

初めに、私たちの理念は以下の5つである。

WILD359ers の目指すもの

- 地域の子どもたちがスポーツ・文化活動を通して世界を広げる
- 子どもたちが自分に合ったスポーツを探し、楽しめる場を増やす
- 学生が地域とのつながりを持ち、地域において役割を果たす
- 地域コミュニティの活性化。新たなつながりを生む
- 心身ともにたくましい子どもがたくさんの地域へ

WILD が目指す将来像に関して、昨年の運営リーダーであり、WILD を最も長い時間見てきている高橋の話を紹介したい。

①子ども（保護者）にとっての WILD の将来像
普段と違う仲間、時間、空間がある存在であり続けたい。大げさに言えば、学校でいじめられていても、土曜日の午後になればいつもと違う時間と空間と仲間があって、それによって生きる希望を持つような存在になればいい。広い世界を提供する WILD でありたい。

②スタッフにとっての WILD の将来像
実践の場。悩みの種を与えてくれる場。考えるきっかけを与えてくれる場であり続けてほしい。そして、現状に満足せずに、もっとステキなプログラムにするには、と思考して実践できる場であってほしい。

③社会にとっての WILD の将来像
大学、学校、地域、行政に WILD の存在を認知させ、「お金（など）」と「価値」を交換できるようにしたい。地域の商店街がスポンサーになり、町の清掃活動を WILD で行うような関係を築きたい。それによって、町で WILD の子どもと地域の大人との「お、最近の調子はどう？ 今度の試合頑張れよ！」と言った会話が自然に交わされている光景を見ることができたら最高である。

以上が、高橋が考える将来像である。現在の教育界では、教師、保護者、地域住民が共に作り上げるコミュニティスクールというものが話

題になっているが、WILD もそれに近いものを目指していると言えるかもしれない。地域の結びつきが薄れている今だからこそ、学校の中に新たな地域を作ったように、WILD という1つのサークルの中から新たな地域が生まれていけば良いのではないだろうか。それがきっと次代の共同体の形「Next Community」になるはずである。

WILD の子どもたちに見る夢

少年野球チームの子どもの多くがそうであるように、WILD のフラッグフットボールのチームの子どもたちの中にも、プロのプレーヤーを夢見ている子が何人もいる。私たちは、その子たちの夢を尊重してあげたいし、心から応援している。しかし、プロプレーヤーを WILD から輩出することを目標にしているかと言われるそうではない。WILD を巣立っていった子どもたちには教師、会社員、新聞記者、作家、芸術家、建築家、医者、政治家…など様々な分野で活躍してほしいと思っている。そうなることが、「心身ともにたくましい子どもがたくさんの地域へ」という理念へと繋がるはずだ。これは個人的な希望なのだが、いつかその立場を生かして、少しでもスポーツの普及・発展に力を貸してくれたらとも思う。教師であれば生徒にその楽しさを伝えてほしいし、建築家であれば今までにないようなスタジアムを設計してほしい。新聞記者であれば記事で、政治家であれば政策を通してスポーツの価値を高めてほしい。そのためには、スポーツの魅力を言葉で教えるのではなく、活動の中で共に感じてもらうことこそが私たちが今できることである。

最後に、スタッフが密かに夢見ていることを1つ。今活動に参加してくれている子どもたちが将来 WILD のスタッフとなり、地域の子どものために尽力してくれたら、これ以上に素晴らしいことはないと思う。そして、その子どもたちの中に現スタッフの子どもがいてくれたら…。そんなことを密かに願いつつ、私たちはこれからも活動を続けていく。

ご意見、ご感想などありましたらホームページの掲示板までお寄せください。

http://www.geocities.jp/wild_359ers/index.html

また、体験も随時受け付けておりますので、ご希望の方は wild_359ers@yahoo.co.jp までご連絡ください。